

シ
士

役人が威儀を正して地上に直立している象形。

官吏(卿・大夫に次ぐ) 例 士・大夫

武官(さむらい) 例 武士・士卒

成人した男子 例 士民

学問に志す人

学徳の成った人 例 士君子

シ
仕

人が官吏となるのは“つかえる”ためである

つかえる 例 仕官・奉仕

シ
志

心に士となろうと“こころざす”

こころざす 例 志望・志願・立志・初志

シ
誌

心の動きをことばとして“書きとめる”(止)

しるす 例 日誌(日日誌す)・雑誌

シ
× 瘡 皮膚にしろされたもの

あざ

問 次の“士”の意味を考えよ。

一、士¹は以て弘毅ならざるべからず。

二、吉田松陰は士²規七則を作る。

参考 字音と字訓(一)

漢字にはふつう“音”と“訓”とある。音とは、漢字が日本に取り入れられた時の中国読みのことであり、訓とは、その漢字にあたるわが国のことばのことである。

たとえば、“花”という漢字は、中国では“カ”と発音されるので、“カ”が音である。“造花”“花瓶”という使い方がこれである。それは、わが国では“はな”ということばにあたるので、“花”を“はな”と読む読み方が生じた。これが訓である。

1 答: 一;

2 答: 二;